



老
酒
藥
酒

四
字

蘇
文

卷
七

曾
分 6
6

1 5
5 6
6



曾 5
號 6
卷 6

林三又

金平光姫茶作卷之七

目錄

- 一 多岐丸道
- 一 上戸下戸
- 一 後成々
- 一 冠 割
- 一 松虫 浮世
- 一 久々 中
- 一 五分の侍
- 一 上田の茶湯

- 一 宗祇辭世
- 一 一ツツきの歌
- 一 尺八
- 一 雄略の皇后
- 一 十二八
- 一 繪約
- 一 逃異記
- 一 廣異記



國陽雜曰

宣室志

酉陽雜俎曰

茅亭客話

二程全書十九

聞歌錄

廣五行記

宣室志

事文類聚 後集 二十

多岐九道

愚等生於唐末

大歎院極作久乃相監トミセヨビク誰々茶の味
 一ノ是者ヨクヨク中ヨク相監作クた世うれ々々
 可ク後多賀ト世ハナハシ一ヨクれを
 た世ヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨク
 憚トテ解一ヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨク
 解トテヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨク
 老生オモテヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨクヨク
 たりたりたりたりたりたりたりたりたりたりたり

神世の白よ

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

西條の心もさうさうさうさうさうさうさう

朝の心もさうさうさうさうさうさうさう

朝の心もさうさうさうさうさうさうさう

宗道

後成

後成の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

神の心もさうさうさうさうさうさうさう

ふれいこもあたらしくなり

中も我身もあきら

又日も内裏の夜指せらるる人
そせは色も女房のしるし
しるしの年

新し

とくはふらんあきら

おのりくはるる

梅の山はもろもろ
上達部殿上人

あきらめはあきらめ
侍向のあきらめ
あきらめはあきらめ

冠割

定宿拾遺よ
あきらめはあきらめ
あきらめはあきらめ
あきらめはあきらめ
あきらめはあきらめ
あきらめはあきらめ

八洞蕭と、形らひ多緒りとしりす

菅虫論正

松むし 冷虫の 毒もさうして身付たりと成り
しむし 毒は松むし ありと成り 冷虫の 毒は
すし 毒は 丁禁裏院中 ありと成り
毒は 好く 國東 ありと成り ありと成り
ありと成り

旅累川皇后

旅累帝より 毒は 後胤 ありと成り ありと成り ありと成り
草の中より 毒は ありと成り ありと成り ありと成り

樹よのぼりしにありと成り 天皇命人 毒は ありと成り
のぼりし 極毒と成り ありと成り ありと成り ありと成り
村より 刺殺せし ありと成り ありと成り ありと成り
樹よのぼりし ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り
天皇に向ひし ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り
ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り
皇名 幡投娘の ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り
ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り
ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り
ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り ありと成り

皇則皇后とて一法車小上りて歸り終ひて
弟事とゆけんは會歎とゆへに朕は善く成候
とてとらふにば世の日本紀推異記に見くはる
梅小皇后の法儀をいふ所の聖旨の中は
推異も又皇性のゆへにとて法儀成事
法事の後世人君の法儀のさへ終ひ候
ひらへ

久す

くす———宮庭拾遺卷二右近衛監下野原
ゆへに死人と我家———おれは後より

事子もいふ家の門と死人とあはれ人
ゆへに死人と我家———おれは後より
ひど此厚の世とていふにゆへに
ゆへに死人と我家———おれは後より
事ゆへに死人と我家———おれは後より
おれとていふとていふとていふとていふ
のゆへに死人と我家———おれは後より
海に

十二

源平盛衰記より———世院の御鏡とて御鏡の箱

冬代御使の家へ 入世御使のまゝ
つらつら海小川を流る 海生は未だあはれを
重んずるの故に ありては世目代
近世は信濃の ありては古もや
事むる

五歩之詩

昔の更七歩の侍の人 なる口を なる浪御代
解編は唐の閑えの なる史育の 五歩の侍除夜と
しし題し

今歳今宵盡

明年明日来

寒随一夜去 春逐玉更廻
氣色空中改 容顏暗夜催
風光人不覺 移入後園春

繪約

しらす尾花さの ありては

地 ありては ありては

此後奇ハ元正天皇此法製御 法秋中
すらす尾花も同 ありては ありては
流る 尾川 ありては ありては ありては
判りたるを白木より ありては ありては

性の如くは了了するを新しくして曰我性
解成等むまの申入候ことんずつとも是
た今も成りて一終と仰いで我をうけおひり
る一解成多くくちあつて我は山積山の神と云
白濁山の神と云ふあらむあき氣後流るる
ふあふ最の事くは者歎け放して出
しとての事くは性名を同
しとて病苦しとて家しとて成りて
然も我代りて性も同しとて言ふ事
是なりとて物くは新帰りて禁大
くは性名を同しとて言ふ事

くは性名を同しとて言ふ事
宇新正とて候なりとて性名を同しとて言ふ事
士信の曰是等山題とて人の性名を同しとて言ふ事
是とて人代りて候なりとて性名を同しとて言ふ事

廣異記

山題の所記あり獨ふ事とて性名を同しとて言ふ事
むしとて性名を同しとて言ふ事
山題の事とて性名を同しとて言ふ事
あふ事とて性名を同しとて言ふ事
曰は樹なりとて性名を同しとて言ふ事

予も山寇の事我々も荒の路をゆく
那子これ我々の客をさうすの荒平とす
彼れ山寇を北の暗形我れも北の金浅形
とす

酉陽雜曰

活陽監得寺僧知通は平一法名新我清海
我海江の事好く余海の比我米の人の
予平年代通く為て我人をも唐家とす
く知通我れ知通言く我れ何者
余れ知通の事とす

只一人の事の時も別々の僧の事とす
合掌なり知通は曰く世に於て大を禁く身とす
あつては悟れはく大を禁く身とす
るは悟れはく大を禁く身とす
く知通香冠をとりて大を禁く
了口の因りて悟れはく大を禁く身とす
はく知通言く我れ何者
あつては悟れはく大を禁く身とす
尋ふる大を禁く身とす
とす

柳の軍馬の... 虚御直... 見人... 柳の木の... 百
... 一瓢... 徒更... 柳の木の... 百
... 又... 柳の木の... 百
... 柳の木の... 百
... 柳の木の... 百
揚羽の... 柳の木の... 百

少く... 柳の木の... 百
... 柳の木の... 百
... 柳の木の... 百
... 柳の木の... 百
... 柳の木の... 百

百陽龍廻日

温... 柳の木の... 百
... 柳の木の... 百
... 柳の木の... 百
... 柳の木の... 百
... 柳の木の... 百

用新派

り後この金のよの陰院とて守り文澤と
し後より麦の以る路り多しとてあつては
文澤の所よりあつては海濱よりあつては年
強し食を漸く腫る大なる麦枕の如し又
六月及び七月路り大雷鳴り腫る不慮の官事
ありし事痛出り人を見せしむるは元の内
と一物より端より龍の法とてしとてしとて
数ありし痛とあり日代路り又あつて雷鳴
下庭中よりあつてはあつては雷鳴入頂の穴より

拍子ぬけ出りし事ありし事ありし事あり
白龍の秋長と武下中りし事ありし文澤の項の
痛や官事平食しし事ありし事ありし事あり

廣小沢記

唐の路り肺癆の病と替りし事ありし事あり
後板平より命終らし事ありし事ありし事あり
曰右氣油の如し事ありし事ありし事ありし事あり
相ふ病の如し事ありし事ありし事ありし事あり
子別りし事ありし事ありし事ありし事ありし事あり
ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事あり

借の中よる〜同音よ声と合〜葉〜一借と
憲がらひをさる〜信よと冷ふ事高〜響き
おきよよ衣と〜きまぬ〜ゆり通り池〜蛙
鳴事高〜夜夜可見〜市遠〜池上那蛙
もさのの借の〜

車文類聚

後集 二十

陳留の因氏〜婢興近〜し〜着山〜入〜撫〜
芳走〜外〜爰思〜ま〜の女あり〜〜〜日我近〜
世〜氏〜糸〜目〜目〜利〜〜〜是成鳥〜
ま〜〜上〜厚〜被〜了〜〜爰思〜〜〜あ〜居〜新

のふり〜を〜果〜〜〜一〜の折櫃あり〜
福精地〜と海〜羊腹の内〜生〜引〜引〜引〜
振を補い〜〜〜〜五〜引〜引〜福精の取〜
一〜の合指塚を〜

是中羽小野小町〜事〜よ〜お〜〜〜
羽を撫〜小野小町〜〜〜の草を思〜
物五的抄を〜思〜〜思〜思〜
或況〜中〜拍〜二条の后を紀〜
中〜云〜心〜家〜〜〜後〜
階奥國八中〜事〜〜〜小野小町〜福精

秋風の吹よけ

らるる

葉年は秋風の吹よけの目めをよけよけ
生板より風よけ

小節とては

と下白を附

搦囊抄

目より薄く出るよき古事
傳ふ少くも
連音

目より薄く出るよき古事

と云張白のよき事

りのゆは野邊に村をて破る

と舟より名をよきとて十佛

古事や下よきとて

バ小節の集り

秋風の吹よけ

らるる

小節とては

らるる

秋風の吹よけの目めをよけよけ

と澄と信より是ハ波小町あり後よきあり
ありとあり

平安誌

市原のありしと小野小町とを食て

市原のありの塚と云ふ小野小町平安の園寺なり
高野のありの菴と云ふ世書あり

地ろのありの身をば承とてあり

小野のありの跡のあり

弘法大師の跡のありけり

世の中り秋風をとりあり

小野のありのあり

と云ふは何あり

秋風のありありあり

小野のありあり

大原のありのありありあり

晴るありのありのありありあり

白のありのありのありあり

又西の法師のありありあり

佛のありのありあり

ありありありありあり

ありありありありあり

と清く色あひる小湊台十八九斗りの女あし
けきと清くくせり

つとよけ野の

草のけり

今くちり

つとよけ野の



